

# NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人  
長野都市経営研究所

Vol.20

2005.MAY

発行日/2005年5月13日(年4回)

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178-2 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

5月29日(日) 16:00~16:54 信越放送特別番組「都市再生の最前線～賑わいを取り戻すために～」放送決定

## NUPRI 全体懇談会

### 鷺澤市長を迎え、第一部で講演会

### 第二部ではなごやかにコンサート&地鶏試食会



市川理事長

去る3月22日、NUPRI全体懇談会が、ホテル国際21にて開催されました。

第一部では、長野市街地を中心に、より広範なエリアの活性化のために事業を推進しているNUPRIの役割を改めて確認し、会員の積極的な活動参加を呼びかける市川理事長のあいさつに続き、若林理事から、今後NUPRIが取り組む事業についての指針と展望について説明がなされました。続いて、鷺澤長野市長の講演が行われ、行政とNUPRIの

#### 【事務局報告】

#### これからの長野都市経営研究所が

#### 取り組む事業について

■10年を振り返り、11年目に向けて新たな挑戦を事務局の立場で、これからのNUPRIについて理事の皆さまや事務局のメンバーの皆さまと討議してきた結果、一定の方向性が出ましたので、ここで報告をさせていただきます。4月からの新年度の事業に反映していければと考えています。本日は市長もお見えですので、今後の活動に対する忌憚のないご意見をいただ

連携による地域活性化について、期待を込めたメッセージをいただきました。

この日は、信越放送のスペシャル番組を制作するため、テレビクルーが取材に入っており、会議の様を熱心に撮影していました。スペシャル番組は、NUPRI成立から現状までの活動経過を振り返るとともに、長野市民の皆さんに広くPRするいい機会になるはずです。NUPRIが、地域の活性化に向け、研究・提言のみならず、実践・活動する団体であり、なおかつ資金的な援助も積極的に行っている団体であることを会員相互が再認識し、より有意義な活動をめざすステップとして、非常に有意義な懇談会になったと考えます。

また、第二部は趣をがらりと変え、「松代地鶏とスペシャルオリンピッククスチャリティーコンサート」と題して開催。地元を拠点に活動中のデュオ「ma(ま)」のミニコンサートと、NUPRIが支援した「まつしる遊食プロジェクト」が開発した「信州松代真田地鶏」の試食会が、なごやかに行われました。

くとも、皆さまにもNUPRIの新たな取り組みについて、積極的にご討議いただきたいと思えます。

NUPRIは1995年に、鷺澤現長野市長を初代理事長として設立し、10年の間にさまざまな事業を行ってまいりました。長野市内には、似たような経済団体がいくつもありますが、長野市街地を中心とする広い「オリンピックゾーン」から会員が集まっていること、そして提言だけでなく具体的に行動を起こすことを大きな特長としています。そのことが、セントラルスクウェアのオリンピック表彰式会場としての提供、NUPRI自体のNPO法人化、さらには(株)エムウェーブ・(株)まちづくり長野への出資、最近では長野ブラ



若林理事

ンドの確立など、さまざまな活動につながってきたと考えています。

設立11年目を迎えた2005年は、次の10年に向けた新たな取り組みに挑戦する年ということがいえるでしょう。

■全国でも稀少な「まちづくりのNPO法人」としてNPO法人長野都市経営研究所は、長野市を中心としたオリンピックゾーンの将来あるべき姿を研究し、その実現に向けて提言・実践活動をしていく団体です。この規模で展開する、まちづくりのNPO法人は全国的にも珍しい存在だと聞いています。NUPRIは、機動性を大きな特長に、

- 1 情報提供事業
- 2 都市づくりの前提となる普遍的価値の継続的研究
- 3 オリンピックゾーンの地域特性、特にオリンピック開催という特殊事情も加味した研究テーマの選定
- 4 まちづくりにかかわる市民の主體的な活動および市民活動団体に対する助成
- 5 その他、長野市を中心とした将来の姿を研究し、実現に向けた提言、実践活動の目的を達成するために必要な事業

#### ■平成16年度部会の概要

平成16年度は、6つの部会と2つの委員会により活動を展開してきましたが、現在の景気動向をみても、非常に厳しい環境の中にあり、活動によっては、具体的なNUPRI像が見えにくい状況にあるのも事実です。そこで、平成17年度以降に向けた、新たな挑戦の志を組み立てました。

※4ページに続きます。

# 地域経済人との「協働」による 活気あふれる長野市の創造に向けて。

NUPRI草創期の初代理事長として、2001年からは長野市長として、行政と民間活力との協働による地域活性化に尽力している鷺澤正一市長。市長となってからの取り組みを振り返りながら、今、改めて価値が問われている「協働」に目を向け、11年目を迎えるNUPRIへの期待を語っていただきました。



講演／鷺澤 正一  
長野市長

## 支持母体として、 常に積極的なチェックと提言を

今日はお招きありがとうございます。私は、NUPRIを母体として市長選に出馬し、皆様のご支援を得て当選しました。いわば「皆さんの力で作った市長」ですから、皆さんには、常に私の市政を客観的に厳しくチェックしていただきたいと思えますし、また地域経済などの活性化に向けては、良い意味で行政をもっと巻き込むような、積極的なご提言を投げかけていただきたいと、日頃から考えています。NUPRIも発足から10年が過ぎ、世代交代の時期にさしかかってきているのを実感します。新たな事業への視点として、若手の皆さんが中心になって、行政との「協働」を具体的な施策の中でお考えいただいている点には、非常

に期待を寄せています。それにつけても、市長である私に対する、より積極的なチェックと提言を改めてお願いする次第です。

## 「マニユフェストの限界を知った上で 「公約」を自らの判断基準として

さて本日、皆さんの前でお話するにあたり、私が市長になる時、皆さんとお約束した12項目の公約を、改めて見直してまいりました。この12項目について、責任を持って取り組まなければ、私は皆さんに対して役目を果たしたことになりますし、また市長としての私の価値はないと考えています。

こうした公約を掲げる際、最近によく「マニユフェスト」という言葉を使います。マニユフェストには、「目標をきちんと明示すること」「その達成のための手法・手段を明示すること」「その期限を明示すること」が必要だと、私なりに考えているわけですが、実際に、その実現に向けた取り組みを進めていく場合、相手のあんな話は、マニユフェスト化してもうまくいかない場合が多いということが、よくわかってきました。

その最も顕著な例は保育園の民営化です。私の手法が不十分だったこともあるのですが、この取り組みは保護者の皆さんから猛烈な反対を受け、これ以上強引に押し進めるのはむずかしいという判断で、足踏みする結果になっています。

他の件に関しては、民営化をかなり積極的に進めてきました。葬祭センター（斎場）2箇所は、民営化により、年間1千万円クラスの経費削減に成功しています。また、水道料金徴収、第二学校給食センターも民間委託を実現しました。しかし、この2つに関しては、本当にやっけてよかったのかどうかという疑問を禁じ得ないのです。なぜなら、民営化にあたり、落札した



のは東京の事業者でした。辛うじて温湯温泉のPFIに関しては地元事業者の方々がスクラムを組んで、地元で落ちることになりましたが、事業全体は地元ではなく東京の事業者にとって行かれたかたちになります。民営化は、もっと推進すべきだと感じているものの、長野の事業者の皆さんの意識は、まだそこまで育っていないという現実を目の当たりにしたわけです。

また、「最終的な姿を描けないもの」、たとえば「中山間地の活性化」「少子化」「CO<sub>2</sub>削減の問題」「景気と雇用」といったテーマも、マニユフェストだけでは実現できないものだと実感しています。これらの問題は、「こういう方向へいけばよくなる」ということは理解できる。しかし、その結果として、どういう社会になるのかという「絵」が具体的に描けない。たとえば、少子化対策として、先進国のフランス

のように産休中の所得を保障すれば出生率は増えるでしょうが、その莫大な予算をどこから捻出するのか、という議論になる。また、CO<sub>2</sub>の削減を推進する場合には、家用車をどこまで制限するのかというところまで具体的に考える必要がありますが、だれもそれを提示できないのが現実です。このように、ひとつの自治体の力だけではどうにもできないことも、実際には多いのです。また、「国、県、市、そして市民の間における役割分担ができていない分野」も、手をつけるのが非常に困難な部分です。義務教育の負担分担もそのひとつでしょう。それぞれが負担すべきことが明確になっていればやりやすいのに、現実はそのようではなく、結果としてそれぞれが苦しい状況に陥っています。

このように、実際に取り組んでみた結果、マニユフェストでは到底解決できず、明快な答えを出せずに困るテーマが、いくつか明らかになってきたという現状です。とはいえ、私は12の公約のすべてに取り組み、可能な限り情報公開するように心がけてきたつもりです。この公約に対し、どう取り組み、どういう結果を出してきたかが、自らを採点する基準であり、同時に、私の選出母体となってくれたNUPRIの皆さんが私を評価する基準なのだと思います。改めて、厳しく、積極的に見つめてほしいと考えています。

## 協働によって ぜひ魅力ある長野市の創造を

先ほど事務局から提示されたNUPRIの「新たな挑戦への4つの志」の中で、行政との協働に関しては、ぜひ積極的に考えていただきたいですね。行政のルールや財政に照らし合わせ、提案すればすぐ実現するというものではないとはいえ、実現の可能性をともに探り、実現をめざす努力を続けていきたいと考えています。

すでに研究を進めて来られた「デマンド交通」は、どうあっても平成17年度中に実現しますので、ぜひ協働の成果を発揮していただきたいと思えます。

「中心市街地の活性化」も、大きな課題とし



て、ぜひ引き続き進めていただきたい案件です。「地域の力」の低迷を阻止し、街を活性化させるためには「若い世代が活躍する場の創出」が不可欠です。なかなか次の世代に譲ろうとしない年配世代、積極的に参画しようとしていない若年世代、この両者をどう調整し、活気ある地域を創造するか。ぜひ皆さんのお知恵と行動力に期待したい部分です。

教育事業への取り組みも、ぜひ手を携えて、推進していただきたいことだと考えます。

皐月高校を運営維持するにあたっては、市としての負担が大きいことは確かですが、県内唯一の市立高校として、なんとかいい学校にしていきたい、これは悲願です。

現状、市立高校の教職員の給与は市が負担していますが、市には退職金を払う力がないため、皐月高校の先生方には、実は、退職間際に県へお帰りいただくことが数十年来のルールとなっているのです。しかし、これでは正直言っていない学校になりたくない。「ここに骨を埋める」くらいの覚悟がなくては、なかなかいい先生には

なり得ないし、県立と同じ枠の中では、特色を出そうにも、個々の先生が思い切ったことをするわけにもいきません。だが、本来は、市立ならではの特色ある教育を展開できる可能性は大きいわけですね。そのあたりに関し、ぜひ地元経済人の皆さんのご意見をうかがいながら、いい方向に進めていければと考えています。

スポーツ振興に関しては、市としても、ぜひ積極的に取り組みたい施策です。特にサッカーについては、年間3000〜4000万円ほどの莫大な予算がかかるし、現状では条件を満たす競技場も長野市内にはありません。しかし、どうやら「長野エルザ」の後援会組織もまとまってきて、「J」をめざしての支援が本格化しようとしているわけですね。昨年は負けてしまつて残念でしたが、もし「J」の可能性が現実的に見えてきた場合には、長野市としても悩みに悩む用意はあるとお考えください。実現すれば、街に元気が出てくるのは確実だと思いますのでその時、市民の合意を得られるかが、大きな課題となるかと思えます。

昨年、「松代イヤー」が成功したのは「松代」に億単位の投資をすることに対し、地元松代の方々だけでなく、他のエリアの長野市民の皆さんからも反対が出なかった、むしろ喜ばれたということが、大きな要因となっていることを認識しておく必要があるでしょう。市民の中から盛り上がってくるような運動にならなくては、大きなプロジェクトを実現させるのは、非常にむずかしいのです。

### 地域産業活性化のために 知恵と勇気を出して

NUPRIがこれから力を入れようとしている「新産業育成」の中でも、「指定管理者制度および民営化の受け皿を検討する」という点に關しては、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと考えています。

現在、長野市には約700の施設があり、そのうち200は新たに長野市になった地域に点在しています。まず、旧市内のうち約200件

について、これから具体的に指定管理者制度の入札応募を受け付ける予定です。これを素材として、ぜひとも地域の経済、産業の活性化を図っていただきたいのです。

先ほどもお話したように、他市のこの制度の入札では、現時点で県外の業者が落札するケースが相次いでいます。東京から業者が入ること競争が起き、地域のレベルが底上げされるといってもいいでしょう。しかし、地域の産業が活性化するためには、それでは困るといえる思いがあるのも、正直なところですね。ぜひ皆さんにこそ積極的に名乗りを上げていただきたいと思っています。

指定管理者制度の導入は、コストの削減が第一義ですが、それだけではなく、民間受託によりサービスの水準が上がると、利用率が高まることを大きな目的としています。現実には、豊野の「りんごの湯」は、合併前に豊野町がJAなとの契約したようですが、非常に成功している事例でしょう。逆に、赤字を抱えたスキー場も、今後どう考えるかといった、無視できない課題もあります。その点も踏まえつつ、皆さんにはぜひ議論を重ねていただき、有用な提言をお願いしたいと考えています。

### 「広域」への視点を持って 新たな取り組みを

さて、NUPRIは設立当時、「長野市街地を中心としたオリンピックゾーン」を対象として活性化を議論して、「こう」という考えで発足し、取り組みを進めてきました。オリンピックが終了後、その機運は急速に落ちてしまったと思われまふ。

それに代わって、長野市がこれから見つめていかななくてはならないのは「広域行政」であろうと考えます。現在、12ほどの市町村が集まって長野広域連合を作っていますが、そこで今、大きな課題として取り組んでいるのが、老人医療、ゴミ、介護認定などの問題です。私は、これだけではまだ不十分であり、広域での取り組みは、もっと強化すべきだろうと考えています。たとえば、コンピュータシステム。今回、合



併を経験してつくづく痛感しましたが、市町村ごとにバラバラのコンピュータシステムを使っているために、合併にあたりどれほどの時間と労力を要することか。長野市の合併の日を1月1日にしたのも、万が一、コンピュータシステムがトラブルを起こす危険性を考え、休日が続く時期をあえて選んだのです。これが、最初から同じシステムを使っていれば、移行はきわめてスムーズです。莫大な時間と人件費を費やすこともない。広域の中で考える意義は大きいはずですね。

ほかにも、消防、学校教育などのように、制度やシステムをひとつに統一し、広域という単位で実行することで、効率が飛躍的によくなり、予算の無駄を削減できる、しかもサービスはよりきめ細かくなる、そんな分野があると私は考えています。ぜひ、ここでも、皆さんの知恵をお貸しいただき、長野の発展にご協力をいただきたいと思えます。

■新たな挑戦への4つの柱

1 行政との協働

長野市をはじめとした行政との積極的な協働市長が標榜する「市民との協働によるまちづくり」を体現しているように考えています。デマンド交通の導入、TMO・エムウェーブの運営の見直し、中心市街地活性化への取り組みに加え、合併後の大長野市の中で、発生しているさまざまな課題を、地域の経済人として発掘し、積極的に取り組んでいく構えです。

2 教育事業

地域に住む社会人として教育事業への積極的な関わり

教育事業に関しては、県内唯一の市立高校である皐月高校の教育カリキュラムに、地域の企業経営者として参画し、市立の魅力を育てていきたいと考えています。

また、サッカーチーム「長野エルザ」を支援し、長野にJリーグチームを育てること、冬季スポーツ選手の育成支援にも力を入れていきたいと考えています。

3 新産業育成

行政の民営化への対応、農業と街の可能性

従来も取り組んできた長野ブランドの確立（厳選の味）の進化）や、アグリカルチャー事業をさらに推進して行くのに加え、指定管理者制度および民営化の受け皿を検討し、新たなビジネスチャンスの機会にしていきたいと考えています。

4 資金支援活動

透明性を高め、公募制による資金支援

従来も、理ウイ会の審議を経て、いつくかの活動に資金支援をしてきましたが、今後「まちづくり大賞」や「公開審査による助成金事業」を創設し、より透明性のある中で、一定の基準や枠に沿った資金援助を検討していきたいと考えています。

以上、現時点では指針の中間報告ですが、11年目以降に向け、より魅力的な活動ができるよう、議論を進めていきたいと考えています。皆さまの積極的なご意見をお待ちしています。

第二部

「松代地鶏とスペシャルオリンピックスチャリティコンサート」

第二部は、くつろいだ雰囲気の中、鷺澤長野市長も参加されて、なごやかな交流が繰り広げられました。

倉石和明長野青年会議所前理事長ならびに事務局の鈴木氏から、「松代遊食プロジェクト」への取り組みと、開発品である「信州松代真田地鶏」に関する説明および報告、「ma」のミニコンサート、そして市長の発声による乾杯に続いて試食会を開催。この3月、長野市をホストシティとして行われた「2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・長野」を機縁に、地域に理解が深まった「SO（スペシャルオリンピックス）」を支援するチャリティー募金にも、多くの協力をいただきました。



倉石長野青年会議所前理事長

●真田地鶏のPRと普及に奮戦中

「まつしる遊食プロジェクト」報告と「信州松代真田地鶏」試食会

昨年の「松代イヤー」に合わせ、長野青年会議所が中心となって、松代の「食べる名物」の企画立案・開発を進めてきた「まつしる遊食プロジェクト」。NUPRIの支援を活かし、NPO法人として順調な活動を展開中です。「信州松代真田地鶏」と命名された鶏肉は、松代エ

リア内をはじめ長野市内各所の飲食店のメニューにも加えられ、この4月には長野駅の駅弁も登場しました。

今後、この地鶏が長野の食文化として根づき、広く各地の人々に認知されるようになることを期待するとともに、長野の新しいビジネス



として確立し、さらなる発展をとげるよう、NUPRIとしても期待を込めて見守っていききたいと考えています。

試食会では、ヘルシーでほどこい歯ごたえの地鶏肉を使った料理に舌鼓を打ちながら、これまでの経過や今後の展開について、さまざまな感想や意見が交わされました。

※信州松代真田地鶏に関する詳しい情報は <http://www.rising1.com/sanada/>

●澄んだ歌声と心に染みるピアノを堪能

「Ea」ミニコンサート

「ma（ま）」は、1999年、信州大学教育学部音楽専攻に在学していた渡部真裕（わたなべまゆ）さんと二唐童子（にからあやこ）さんが結成したデュオ。現在、長野県を中心に各地でコンサートを開催し、熱心なファンも多い注目のユニットです。3月の「SO冬季世界大

会」のサポートソングをはじめ、県内企業のコーシャルソングなどで、その曲と歌声を耳にしたことのある人も多いことでしょう。

「ma」は「しかし」という意味のイタリア語から、逆接の先に広がる可能性をイメージしての命名だとか。のびやかで澄んだ歌声とピアノのメロディにのせて綴られる心温まるメッセージに、参加者は、しばし陶然。演奏後、市川理事長が「心が洗われるひとときだった。地元発信のグループとして、ぜひ支援していきたい。そのすばらしいハーモニーで、NUPRIのテーマソングもぜひ発表して」と感想を述べると、場内は大いに沸き、一段となごやかなムードに包まれました。

